熊本市立金峰山少年自然の家
再建事業について



令和3年（2021年）10月21日

熊本市教育委員会　青少年教育課

1　これまでの経緯

■ **1975年（昭和50年）**

木々と緑に囲まれ自然環境に適し、岩戸観音、峠の茶屋の文化的な遺跡の探訪など、
少年の野外活動に相応しい優れた条件を備えた金峰山登山口付近に野外教育施設を開設

■ **2018年（平成30年）**

耐震診断を実施したところ、全棟（体育室を除く）で屋根の不都合が判明

■ **2019年（平成31年）**

利用者の安全を最優先に考慮し、平成31年４月から受け入れを中止

■ **2020年（令和2年）**

金峰山少年自然の家の再建に向けて、新施設の整備等に関する調査を実施

■ **2021年（令和3年）**

「金峰山少年自然の家の再建に伴う新自然の家整備基本計画」を策定

2 施設の立地状況


金峰山
少年自然の家
金峰森の駅みちくさ館
河内町岳
101
1
熊本すみれ
花園
熊本市立花園
本妙寺こども園
金峰山
熊本聖母愛児幼稚園
島崎
西区
金峰山少年自然の家
谷尾崎町
熊本市立千原台高
上松尾町
熊本市
センターさ
亀ノ子幼稚園
ちぐさ幼稚園
池上町
熊本市立池上小
227
万日山
緑地公園
春日
熊本

3　既存施設の概要①

■所在地　　：熊本市西区池上町3071番地5

■建築年度　：昭和49年(1974年)～昭和50年(1975年)

■敷地面積　：9,456㎡

■延床面積　：2,529㎡

■区域区分　：市街化調整区域

■主な施設　：事務室、保健室、宿泊室、食堂、体育館、研修室、浴室、野外炊飯棟、
　　野外多目的ハウス、浄化槽機械室　他

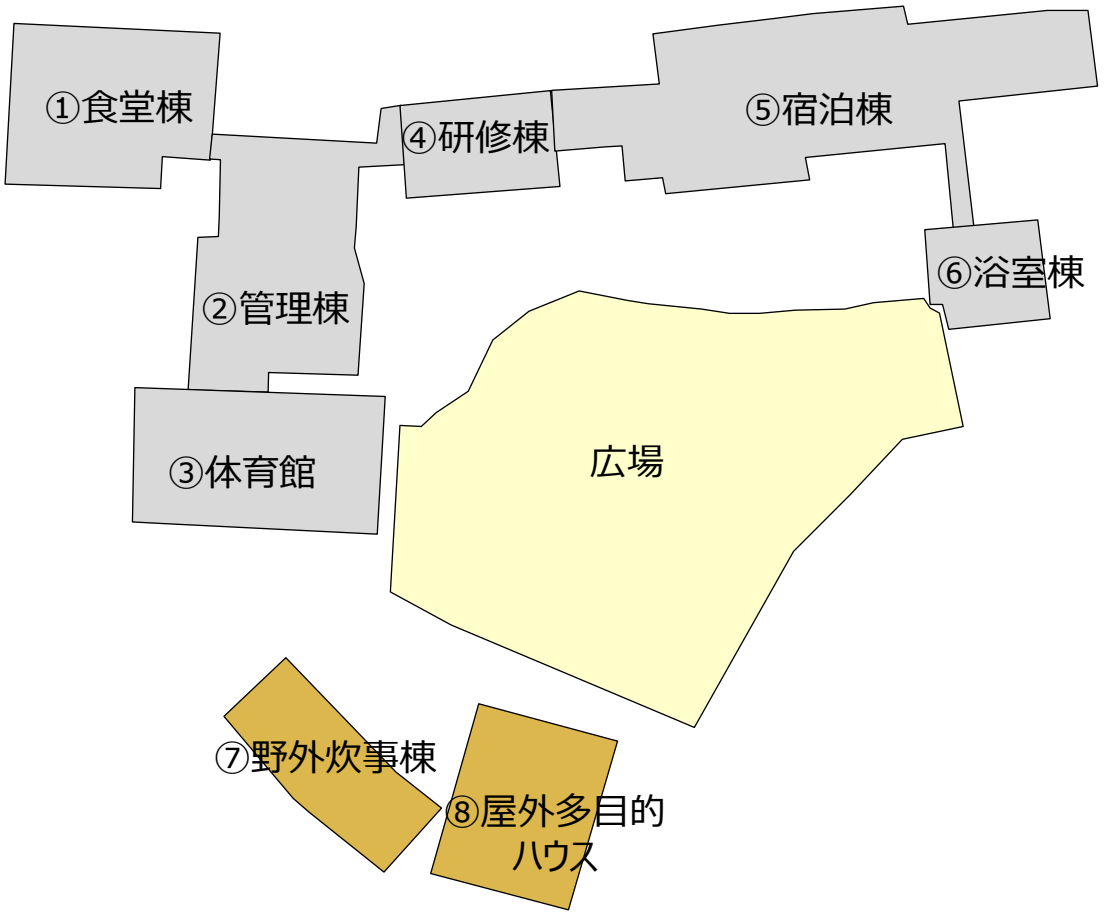
■設置目的　：恵まれた自然環境の中での集団生活を通じて、少年の健全な育成を図る。

■稼働率　　：60.7%（平成29年度）

■運営方式　：直営方式

3　既存施設の概要②

■建物の配置状況



①食堂（定員：100人）

②管理棟（事務室、保健室他）

③体育館（292㎡）

④研修棟（研修室：98㎡）

⑤宿泊棟（宿泊定員：200人）

・児童用23室（1室8人2段ベット）

・身障者用1室（ベッド2台、和室）

・引率者用（4人・和室）2室

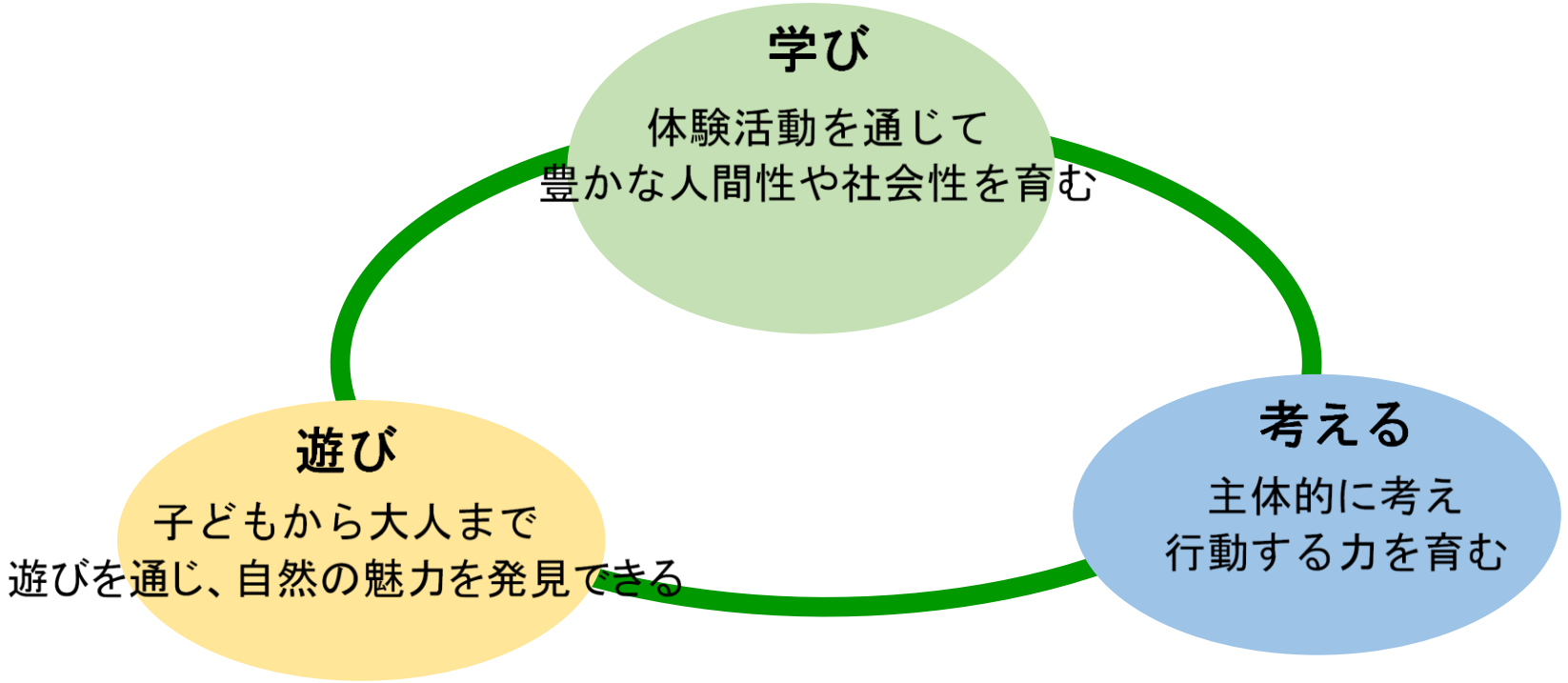
⑥浴室棟（86㎡）

⑦野外炊事棟

⑧屋外多目的ハウス

4 新自然の家整備基本計画 ～ 基本理念

心豊かでたくましい青少年の教育を支援するとともに
誰もが豊かな自然に親しみながら
学び、遊び、考える 自然体験の拠点施設



４ 新自然の家整備基本計画 ～ 基本方針

方針１　豊かな自然を活かした自然体験活動の拠点施設として、学校教育活動を支援するとともに、市民や観光客等が気軽に利用できる施設

方針２　地域住民等との連携によるプログラムの提供や地域情報の発信、交流を創出する施設

方針３　民間のノウハウを活用した効率的な運営や新たなサービスを提供する施設

4　新自然の家整備基本計画 ～ 導入機能・施設①

＜導入機能・施設の考え方＞

◆集団宿泊活動で利用できる規模と宿泊機能があること

◆家族や小グループ等の宿泊人数に応じて利用しやすい宿泊機能があること

◆障がいがあっても利用可能なバリアフリー対応を考慮した施設であること

◆学校教育との連携を図ることができる機能を持っていること

◆子どもだけでなく、大人や観光客等の幅広い利用者が楽しめる自然体験や非日常的な体験ができる機能をもっていること

◆金峰山周辺の自然や歴史、文化、産業等の地域に根差した体験学習活動ができる機能があること

◆林業・森林環境や自然保護について学べる機能があること

◆周辺の観光情報の発信や地域住民との交流を図ることができる機能があること

◆災害時における避難対応等ができる機能があること

4　新自然の家整備基本計画 ～ 導入機能・施設②

＜導入機能・施設の考え方＞

導入機能	機能の考え方
宿泊機能	・　小学校の集団宿泊教室の宿泊利用に対応できる機能 ・　青少年団体や家族、小グループ等の利用に対応できる機能 ・　バリアフリー対応など、安全で安心して利用できる機能
学習機能	・　金峰山周辺の自然や歴史、文化、産業等について学べる機能 ・　創作活動等を行える機能 ・　青少年活動や野外活動の指導に必要な知識・技術を習得する機能
交流機能	・　利用者同士でコミュニケーションを促し、交流を促進する機能 ・　地域住民等とのふれあいや地域の産業を体験し、交流を促進する機能
野外活動機能	・　施設周辺の自然環境や地域資源を活かしたプログラムを通し、自然とのふれあいや自然学習、自然保護について学べる機能 ・　屋外における非日常的な体験を味わえる機能
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ機能	・　屋内における運動やゲームを行うことができる機能 ・　子どもから大人まで楽しめるレクリエーション活動を行う機能
情報発信機能	・　周辺の観光施設や地域の情報を発信する機能

4　新自然の家整備基本計画 ～ 導入機能・施設③

＜想定する施設＞

機能	機能の考え方
管理運営機能	事務室、エントランスホール、ミーティングルーム、スタッフルーム、保健室、更衣室、スタッフトイレ、宿直室、給湯室、電気室、機械室、駐車場、駐輪場、掲揚台、乾燥機室、給排水設備、放送設備、防災設備、倉庫　　等
宿泊機能	宿泊室（和室・洋室）、バリアフリー室、講師室、談話スペース、洗面所、トイレ、多目的トイレ、食堂、手洗場、大浴場、シャワー室、洗濯スペース、リネン室、エレベーター　等
室内学習機能	研修室、体育館、森林学習展示室　　等
野外活動機能	広場、屋外多目的ハウス、野外炊飯棟、野外倉庫、キャンプファイアー場、フリーテントサイト、天体観察テラス、屋外トイレ、水場　　等
その他機能	常設テントサイト、アスレチック、バーベキューサイト、クライミングウォール、ICT機能、情報発信機能、特売品販売コーナー　　等

4　新自然の家整備基本計画 ～ 施設整備方針

導入機能	機能の考え方
管理棟	・利用者を迎えるためのホールを吹抜空間とし、施設全体の見通しを確保し、利用者が分かりやすい空間構成とします。 ・利用者間の交流を促すとともに、憩いの場としても利用が可能な談話コーナーを計画します。
食堂	・多様な利用者層を想定し、だれもが心地よく食事のできるインテリア計画とします。
研修室	・他のエリアとの境界に遮音壁を設置するとともに、ICT設備を検討し、研修に必要な機能的な空間を計画します。
宿泊室	・宿泊室内の通風を確保し、快適で衛生的なインテリア計画とします。 ・車いす対応のトイレ、浴室を計画し、だれもが利用しやすい施設計画とします。
体育館	・想定される体育活動を明確にし、適正な体育スペースを確保します。 ・機能的な活動空間とするために、ICT設備の導入を計画します。
外部施設	・小グループやファミリーで宿泊可能なテントサイトの整備を計画します。 ・野外炊飯など屋外で調理できる機能に加えて、バーベキュー等、野外の自然に囲まれた中で気軽に食事を楽しめる機能を整備します。 ・周囲の自然を活用した遊具やアスレチック等、自然に触れ合いながら遊べる空間として整備します。

４　新自然の家整備基本計画 ～ 事業スケジュール

■ＰＦＩ・ＤＢＯ方式による整備工程のスケジュール（予定）

○　実施方針等の決定　　令和４年３月

○　入札公告　　令和４年４月

○　事業者の決定　　令和４年10月

○　契約締結　　令和４年12月

○　設計・解体・建設　　令和５年１月～

●　供用開始　　令和７年４月

（参考）既存施設の概要③



正面入口



食堂



体育館



研修室



宿泊棟



宿泊室

（参考）既存施設の概要④



談話室



保健室



浴室



屋外多目的ハウス



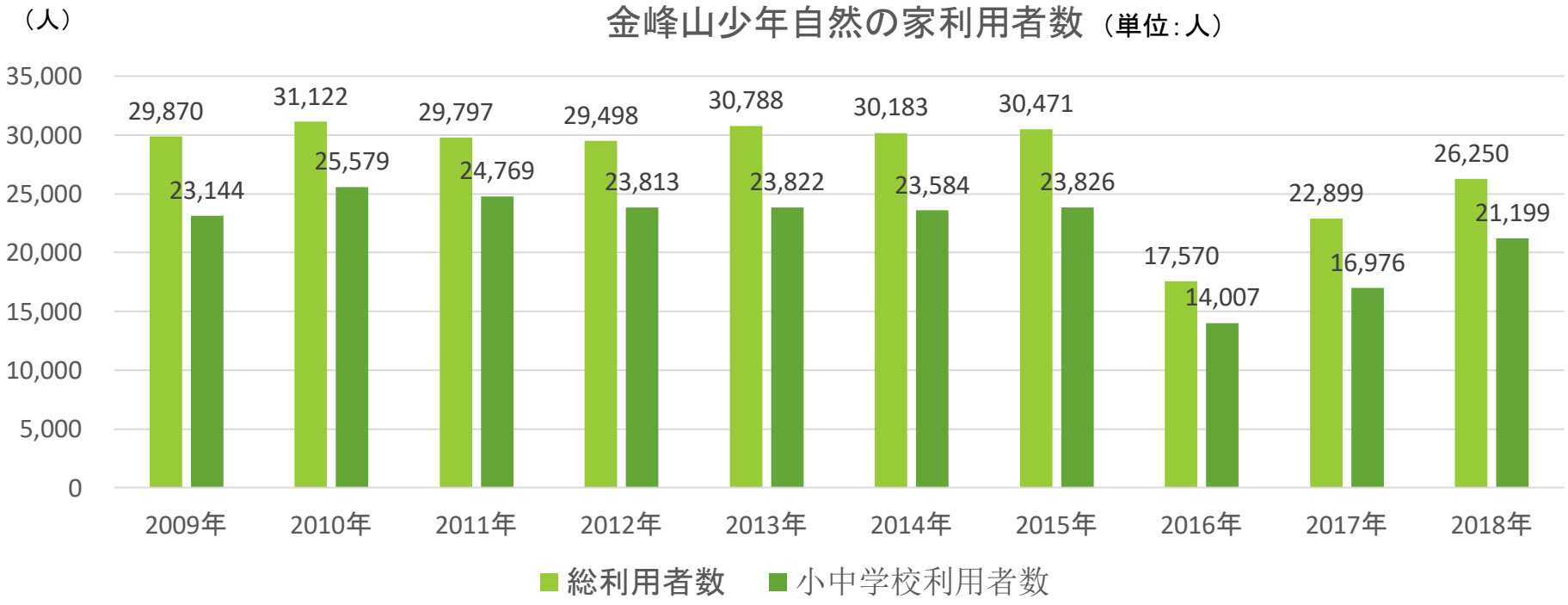
野外炊飯棟



広場

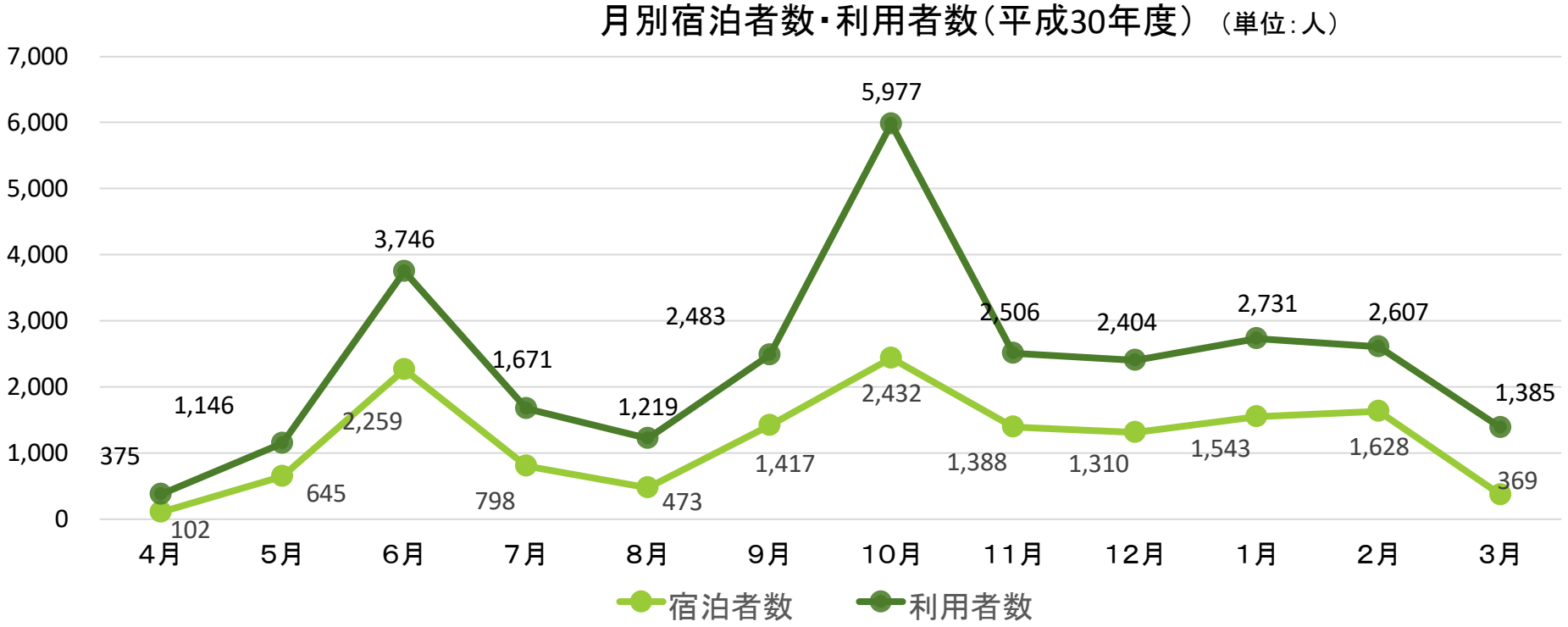
（参考）既存施設の運営状況①

- 直近10年間の利用者数の推移をみると、2009年以降では3万人前後を推移していた。
  熊本地震が発生した2016年には約1.8万人まで減少し、その後は2.6万人まで回復している。
- 小中学校による利用者数については、2009年以降は、2.3～2.5万人程度を推移し、2016年には1.4万人まで減少したものの、2018年には2.1万人となっている。



（参考）既存施設の運営状況②

- 平成30年度の月別宿泊者数と利用者数の推移をみると、宿泊者数、利用者数ともに10月が最も多くなっており、次いで6月となっている。
- 一方、新年度が始まる4月や学校が夏休みとなる8月などで、宿泊や利用者数が少なくなっている。



（参考）既存施設の運営状況③

● 平成２６年度～平成３０年度の利用者数（５年平均）

11，858人(実人数)、25，475人(延べ人数)

(内訳)　小学校集団宿泊教室　7,677人(実人数)、19，355人(延べ人数)

中学校	354人(実人数)、	564人(延べ人数)
少年団体	815人(実人数)、	1，451人(延べ人数)
その他の団体	2，295人(実人数)、	3，137人(延べ人数)
主催事業	717人(実人数)、	968人(延べ人数)

※ 小中学校以外　3，827人(実人数)、 5，556人(延べ人数)

● 平成30年度(2018年度)利用者数

11，809人(実人数)、26，250人(延べ人数)

（参考）令和７年度施設利用者想定数①

13,700人（実人数）

（内訳）	小学校集団宿泊教室	7,677人⇒	6,900人（5年児童数）
	中学校	354人⇒	300人
	少年団体	815人（42人×19団体）⇒	1,200人（40人×30団体）
	その他の団体	2,295人（230人×10団体）⇒	3,000人（200人×15団体）
	主催事業	717人（72人×10回）⇒	1,800人（75人×24回）
	市 民（ファミリー）	0人⇒	400人（4人×100家族）
	企業研修等	0人⇒	100人（20人×5社）

※ 小中学校以外 6,500人（実人数）

※ 団体利用は約3割利用者増、主催事業は32コマ中24回（約7割）実施し、約2.5倍の利用者増を想定

※ 少子化に伴う児童数の減少分は、市民、団体を対象とした事業展開により対応

（参考）令和７年度施設利用者想定数②

（仮）令和７年度　受入調整表（４月～８月）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
４月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
					1							2							3							4			5		
					1							2							3							4			5		
					1							2							3							4			5		
５月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			6		7					8								小学校1							小学校4						
			6		7					8										小学校2							小学校5			
			6		7					8												小学校3						小学校6		
６月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
	小学校7							小学校10							小学校13							小学校16							小学校19		
			小学校8							小学校11							小学校14							小学校17							
					小学校9							小学校12							小学校15							小学校18					
７月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
						小学校22													9							10					
	小学校20							小学校23											9							10					
			小学校21							小学校24		9							10							11					
８月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		11							12							13							14							15	
		11							12							13							14							15	
		12							13							14							15							16	

利用団体　小学校等　企業研修等　市民等　少年団体等　主催キャンプ等

※　５月中旬から3月上旬（長期休業期間を除く）は、小中学校利用を優先。
学校利用のない日は、主催事業、青少年団体、市民、企業研修等の利用を展開する。

（参考）令和７年度施設利用者想定数③

（仮）令和７年度　受入調整表（９月～３月）

